

悠久

第 28 号



河北省邯鄲「黄梁夢呂仙祠」

本号の内容

- | | |
|--------------------------------|---|
| ① 日中友好の架け橋 内山完造が果たした役割 | 先人顕彰会・井原 幹事長 片岡 良仁 |
| ② 「白鹿洞書院揭示」のルーツを訪ねて | 興讓館高等学校 教諭 森田 美和 |
| ③ 吉備中央町中学生国際交流研修事業
「中国に行って」 | 吉備中央町 協働推進課 国際交流担当 根本 喜代香
吉備中央町立加茂川中学校 2年生 渡邊 大智 |
| ④ 上海からのレポート | 協議会事務局からのお知らせ(事務局) |

February
2009

日中友好の架け橋 内山完造が果たした役割



先人顕彰会・井原 幹事長

片岡良仁

岡山県に生を受け、その生涯を日中友好と両国民の繁栄の為に尽力した人物として、岡崎嘉平太氏と内山完造氏の二人を忘れることはできないでしょう。しかし、この二人の中国での足跡は大きく違います。内山完造は、明治十八年後月郡吉井村（現井原市芳井町）に生まれ、十二歳の若さで大阪へ丁稚奉公に出ますが、失敗続きの商売の道に絶望し、二十八歳の時、新天地を求めて田口参天堂の大学目録を売る出張員として中国大陸へ渡った人でした。

その後妻みきが上海において書店を開業すると、完造も書店経営に携わりました。熱心なキリスト教徒である二人は、とことん人を信じ、日本人・中国人の区別無く本の「掛売り」をするなど、丁稚時代に身につけた商人としての才能も手伝い、他の書店とは一味違った経営をしました。

人種を差別しない完造夫妻の生活信条は、現地の中国人から大きな信頼を得ることとなり、反日・排日貨運動が中国全土に広がる中も、内山書店は順調に拡大しました。

また単に本を売るだけでなく、店の中には机と椅子を置き、漫談を楽しむ場も設けました。日本からは谷崎潤一郎・金子光晴・横光利一等多くの人が内山書店を訪れ、完造の仲介で中国の著名な文化人と交流し、書店は日中有名文化人サロンとなりました。

こうした中、完造の人生を決定付けたのは、昭和二年秋、内山書店を訪れた魯迅との出会いでした。

魯迅は、中国近代文学の基礎を築いた文学者ですが、中国国民党政府から危険人物とみなされ、その生命を脅かされます。完造はわが身の危険も省みず魯迅一家を助け、魯迅が亡くなるまでの約十年間、物心両面にわたり支援を続けました。完造のこの行動は、今も中国において「魯迅の命の恩人」と讃えられています。

昭和二十年終戦の混乱時には、中国残留邦人が一人でも多く帰国すべく引き上げ交渉に奔走しました。昭和二十二年に帰国した後も、日中友好協会初代理事長として日中国交回復実現を説き続けましたが、残念ながら国交回復の日を待つことなく昭和三十四年九月二十日、北京において客死しました。

今年の内山完造没後五十周年です。これを記念して私たち顕彰会では、昨年漫画『内山完造の生涯』を発行しました。今年五月十七日には、魯迅の一人息子 周海嬰氏を迎え、記念講演会を開催します。

今や日本と中国との関係は、単なる隣国に留まらず文化・経済両面において、お互い無くてはならない存在となっています。内山完造氏の生き方は、現在および将来の私たちにとって、大いに参考になると思います。

「白鹿洞書院揭示」のルーツを訪ねて ～九江外国語学校との交流～

興讓館高等学校 教諭 森田 美和

【はじめに】

二〇〇八年九月二十五日、中国江西省九江市にある九江外国語学校から五名の先生が来校され、興讓館高等学校と同校の友好交流の歴史の一ページを作りました。九江外国語学校とは、同校が白鹿洞書院と同じ九江市にあることが縁で、昨年二月に友好学校の関係者を含んだばかりであり、初めての交流でした。

この交流は岡山市日中友好協会、岡山県日中教育交流協議会の方々にご協力いただき、二〇〇七年度の文部科学省教育改革推進事業としてスタートしたものです。

【興讓館高等学校と「白鹿洞書院揭示」】

本校は、岡山県の南西部に位置する創立百五十六年の伝統校であり、その起源は一八五三年、幕末の混乱期の最中です。政治の行き詰まり、飢饉による人々の生活の困窮、封建制度による身分制度の固定化、退廃する風俗と民心の悪化。それに加えて、ペリーの来航を初めとする諸外国の圧力…。次々に起こる天変地異と未知の出来事に対する不安。そのような混沌たる時代にこそ、教育が重要であると考え、寺子屋のレベルを越えた郷学の設置を求めた地域の人々が「郡中教諭所」として

開設した学校です。

館祖として招かれた阪谷朗廬は同じ一橋領の備中川上郡九名村の生まれであり、大塩中斎（平八郎）の「洗心洞」や古賀閑庵の「九敬舎」で儒学を学び、緒方洪庵とも親交があったと言われていました。その阪谷朗廬が開校当時から教育指針として取り入れ、ここで学ぶ生徒が斉唱してきたのが「白鹿洞書院揭示」です。

「白鹿洞書院揭示」には「人倫を明らかにする」「義理を実践する」「心身の修養に用いる」「社会制度を維持し、養護する」などの道徳的価値観が凝縮されており、本校はこれを教育方針として、百五十六年の間、代々守り続けています。

【初めての訪中、九江市への旅】

昨年二月十五日から二泊三日の強行日程で江西省九江市を訪れました。九江外国語学校を訪問し、友好学校の関係者結ぶ協定書の調印手続きをするためです。広島空港から上海へ飛び、国内線に乗り継いで南昌へ、さらに車で高速道路を走ること二時間。中国という国のスケールの大きさを体感した一日でした。

【九江外国語学校訪問】

九江市での二日目は、いよいよ九江



学校関係者と九江外国語中学前で記念撮影

外国語学校の訪問です。ホテルから車で三十分ほどのところにありますが、到着した私たちはその学校のスケールの大きさに唖然としました。近代的な校舎がいくつも立ち並び、きちんと整備された校庭や丁寧に植えられた花々、三千人を収容できる大規模な寮。全校生徒が四百人足らずの本校からは考えられない規模の大きさでした。その立派な校舎では約四千人の生徒が主に外国語を学んでおり、その中にはアメリカやイギリス、オーストラリア、アジア諸国からの留学生も数多くいるそうです。生徒たちは外国人留学生と生活を共にしながら、生きた英語や他の外国語を身に付け、世界へ進出する人材

に育っているのです。その後、学校や九江教育局の関係者の方々と対面し、和やかな雰囲気の中で、予定していた協定書の内容に関する話し合いが進みました。そして今後、友好往來を強化し、相互訪問と文化交流を行うこと、日中友好と教育・文化の交流を深めること、「白鹿洞書院揭示」の理解を深めるための協力を行うことなどを約束した協定書に調印しました。

【憧れの「白鹿洞書院」へ】

白鹿洞書院はさらに車で三十分ほど、廬山の麓を登って行ったところにありました。険しい廬山の裾に広がる神秘的な森の中に、静かに、どっしりと佇む門は荘厳な面持ちでした。千年以上の唐代から多くの文人が学び、科擧の試験を旨とした場所であることを思い出し、背筋が伸びる思いでした。実際に学生に教授するために使われていたという明倫堂で斉唱した「白鹿洞書院揭示」はいつもにも増して重みを感じるとともに、中国と日本の国境を超えて、また千年以上の長い時を超えて多くの人々によって斉唱され、語り伝えられてきた揭示の偉大さを改めて感じました。そして、これを今後もしっかりと守り、伝えていかなければならない使命の重大さも同時に思い知った瞬間でありました。本校では毎週月曜日の

朝礼や様々な行事、式などにおいて、生徒・教職員全員で斉唱しているのですが、この歴史の深さと重みを十分理解した上で斉唱することができれば、また一味違ったものになると感じました。今まで、揭示の教えについては何となく理解したつもりになっていましたが、言葉では言い表せない、強いのを感じました。それは白鹿洞書院で学んできた、多くの先人たちの思いだったのでしょうか。いつの日か、生徒たちとここを訪れ、この場所で一緒に斉唱したい、と思いました。現在は、白鹿洞書院は歴史的建造物として保護され、多くの観光客が訪れる名所となり、学術研究の拠点としても重要視されています。白鹿洞の由来となった鹿の石像（明代）には霊験あらたかなものを感じ、その裏では実際に白鹿が飼育されているユーモアにも感激しました。ほんの数時間の滞在ではありましたが、深い感動と親しみを感じた訪問となりました。そして、近いうちにまた訪れることを心に決めて白鹿洞書院を後にしました。

【九江外国語学校教員 訪問団の来日】

九月二十四日は交流の初日。九江外国語学校の五名の先生方が岡山空港に到着されました。どの先生も初めての

来日への不安と、二日間の長旅（上海までは汽車を乗り継いで移動されたらしい）でお疲れの様子でしたが、出迎えた教職員に明るい笑顔で挨拶してくださり、九江外国語学校と興讓館高等学校の友好のページがスタートしました。その日は瀬戸大橋などを見学し、夜は倉敷のホテルで歓迎食事を挙げて交流を深めました。

九月二十五日はいよいよ五名の先生方と本校での交流です。「白鹿洞書院揭示」が交流のきっかけであることから、まず本校一年生の論語の授業を見ていただきました。本校では一学年で「論語（学校設定科目）」を必修としており、オリジナルの論語教材を用いて論語と



九江外国語中学教師による朱子学の特別講義（興讓館高校にて）

漢文の基礎を学習します。「論語」を学ぶことで、生き方・考え方の基礎をつくるとともに、本校がめざす「人間力」の向上をめざしています。

九江外国語学校の二人の先生方は、動画やイラストを取り入れたスライド教材を使って、論語の起源となった中国の故事や中国での解釈のしかたなどについて分かりやすく話して下さいました。生徒たちは、言葉も文化も異なる中国と日本ではありますが、儒教思想によって深いところまでつながっていることを理解したようでした。

【終わりに】

この度、文部科学省の教育改革推進事業の指定をいただいたことで、長年、思い描いていた白鹿洞書院とゆかりのある中国の学校と交流することができました。生徒・教職員が目標として掲げ、唱えている「白鹿洞書院揭示」ですが、実際のところ、その成立の由来や背景、中国の人々の受け入れ方などにはほとんど触れることはありませんでした。しかしこの度、実際に現地を訪問したことでより理解が深まりました。今後は相互に、長期休業を利用して短期の交流、留学、教員の研修などを積極的に行い、「白鹿洞書院揭示」を考究するとともに、国際理解を深めることに役立てていきたいと思えます。

吉備中央町中学生国際交流研修事業

～中華人民共和国江蘇省淮安市楚州区と国際交流～



吉備中央町 協働推進課

国際交流担当 根本 喜代香

岡崎嘉平太氏と周恩来総理は、日本と中華人民共和国両国の友好を推進されてきました。両氏の故郷である旧賀陽町と中華人民共和国江蘇省淮安市は、偉大な先輩の遺志を継承し、一九九三年に意向書の交換、一九九五年に覚書、一九九九年に友好提携協定を結びました。合併後の二〇〇五年に協定確認書が交わされ、新町においても悠久の友好関係を継承することを確認するとともに、引き続き訪問団、親善交流等の相互派遣を通して文化交流を行い、相互の友好の絆を深めています。

文化交流については、中学校の生徒を中心に習字、絵画などの交流展示を行うなど国際理解と親善交流の思想を深め、将来の郷土の発展に貢献できる人材を育成することを目的としています。

二〇〇七年八月

淮安市楚州区から中学生・高校生十二名を含む十七名が、八月九日から十四日まで、五泊六日で来町。その内、三日を



訪日団からお土産をいただきました

ホームステイで過ごし、多くの地域の方々と交流した様子をご紹介します。岡山空港に元気に着き、



加茂川中学校での共同作業で一度に打ちました

初対面で握手を交わしたものの、聞きなれない日本語に異国の地を実感している様子でした。吉備中央町に到着後は、歓迎会とホストファミリー対面式。ホームステイへの不安もあり、少々緊張している様子でしたが、英語や身振り手振りで一先懸命思いを伝えていました。町内企業で研修中の中国の方々に通訳として参加もいただき、和やかに歓談でき、会話も弾んでいました。

次の日は早速、加茂川中学校で交流会を開催。プラスチックで歓迎され、Tシャツと一緒に絵を描いたり、キーホルダー作りや部活見学、意見交換会を行い交流を深めました。学生同士、物おじしい振る舞いに感心させられるとともに、それぞれの子ども達の順応の早さに驚きを感じました。

町内の企業見学では、社会福祉法人吉備の里を訪問し、部品組み立てラインやクリーニング作業の見学をし、機能回復訓練をしているメンバーと切り絵のうわを作りお土産としました。

教育関係者との交流懇談会で、教育の現状について相互に意見交換を行い、活発な論議を展開しました。両国ともに教

育の重要性や熱心さを感じました。友好訪問の礎となった、岡崎嘉平太氏ゆかりの記念館（岡崎嘉平太記念館）の館長から日本と中国の歴史を勉強後、岡崎嘉平太氏のお墓参りもし、思い出深き大和山で記念植樹を行いました。植樹された桜の木の前に「また来るからね」と誓い合いました。桜の成長とともに一回り大きくなった学生達と再会できることでしょう。

そして、吉備中央町国際化推進協会メンバーのおもてなしで日本文化に触れ、浴衣を着てお茶の心を味わいました。初めて浴衣を身につけて、正座の難しさを実感したようでした。それでも、はにかんだ顔はどこか嬉しげで、静の美しさにひたついているようでした。

交流団の引率者は各ホストファミリー宅を巡回訪問し、お礼とともに子ども達の様子を見て廻りました。ホストファミリーの皆さんと通じあえている子どもたちの姿に引率者も一安心したようです。

つかのまの時間を有意義に過ごし、ホストファミリーや関係者の皆さんに見送られ、握手をしたり抱き合ったり、別れを惜しむ様子は本当の家族と変わりありません。



国際化推進協会メンバーにより日本文化を体験する訪日団

ません。再会を約束しあい、お互いの姿が
みえなくなるまで手を振りつづけました。

二〇〇八年七月／八月

七月二十八日から八月三日まで、中学
生八名を含む国際交流研修団員十二名が
中華人民共和国淮安市楚州区に友好訪中
をしました。この研修で、特に中学生は
海外への興味関心を高め、異文化を肌で
感じるにより、国際理解の基本であ
るコミュニケーション能力や協力する力
を育み、視野を広げられました。

中華人民共和国の面積は日本の約二十
五倍の九百六十万平方メートル。人口は約
十三億人で世界の人口の約五分の一を占
めています。その中の江蘇省淮安市楚州
区は南京市の北東約百九十キロ、蘇北平
原の中部に位置し、面積千六百平方キロ
メートル、人口百二十万人余りの町です。

まず、岡山空港を出発し、上海市の浦
東国際空港に到着すると空港の広さ、人
の多さにびっくりしたようです。中国で
の最初の訪問地である蘇州の寒山寺、虎
丘では中国悠久の歴史を目の当たりにす
ることができました。

その後、楚州区へ到着し、ホストファ
ミリーと対面したもののホームステイへ
の不安は隠せないようです。しかし時間
の経過とともに緊張もほぐれ、中国語、
日本語とジェスチャーを交えての会話が
弾み、賑やかな歓迎会が終了し、中学生
はホームステイに向かいます。



周恩来総理生家を訪問

楚州区で
は、周恩来
記念館、周
恩来の生家
などを見
学、淮安新
安小学校で
は、歌、踊
りなどを通
じて交流を

深めました。

悠久の歴史、目覚ましい経済発展と大
きく変わっていく中国を身をもって体験
した中学生達は何を感じたでしょうか。
中学生の交流後の感想を読むと、大人と
は違った子ども達の純粋な思いや、感受性
を感じる事ができます。ここに一人の
生徒の感想文をご紹介します。

「中国に行って」

加茂川中学校二年生 渡邊 大智

僕にとって初めての外国が、今回研修
先の中国になりました。楽しみでもあり、
不安でもありました。特に、中学生で、
僕一人が男子の参加者だったので、とて
も寂しくもありました。ただ、ホームス
テイ先の子どもが十五歳の男の子だった
ので、少しほっとしました。

中国へ行く朝、六年生の時に担任だっ
た先生に挨拶をしに小学校へ寄りました。
そこで、先生が、

「中学二年で海外を体験できるという
ことはとてもいいことだよ。この体験は、
これからの君の人生にもきっと大きな影
響を与えると思うよ。自分の目で、今の
中国という国をしっかり見ておいで」
と仰ってくれました。僕はこの言葉を
胸に刻んで中国へ向かいました。

中国の滞在は一週間という、長いよう
な短いようなそんな感じでした。ただ、
研修という事で、中国の歴史に触れた
り、中国の学生たちと交流したりと、と
ても有意義な時間を過ごしました。その
中でも、やはり言葉が違う国でのホーム
ステイは僕にとって一番の心に残る体験
になりました。

三日間のホームステイでしたが、僕は
不自由することなく生活することができ
ました。家族とも仲良くすることができ
特に、食事のとき、家庭の温かさを感じ
ることができました。そして、本当にい
ろいろな話をしました。お互いの国の習慣
や風習など、あげればきりがありません。

ただ、昭哲君が突然、日清戦争の話を
したときには驚きました。いくら今こん
なに仲良くなっている、過去の過ちは
見過ごすわけにはいかないんだ、という
ことを実感しました。だからこそ、今あ
る友好関係を保つことの大切さと必要性
を強く考えさせられました。

ホストファミリーと別れるとき、最後
に交わした握手の温かさと力強さは、僕
にとって一生の思い出になると思います。
岡崎嘉平太先生が大切にしてくれた国境を

越えた友情というものを、僕も少なから
ず味わえたような気がします。本当にす
ばらしい体験ができました。

僕は将来、必ず中国へ行く機会を自分
で作り、もう一度ホストファミリーに会
いに行き、大人になった昭哲君と再会の
握手をしたいと思っています。

今回の研修を通して今までの自分の考
え方が少し変化しました。「僕が何かをし
たって変わらない」今まではそう思っ
ていたことが多かったです。でも、「僕にで
てもできること、少しずつでもできること
を続けていくのが大切だ」少しだけぞ
う思うことができました。

今回の体験を活かして、これからの人
生を送っていこうと思います。

交流を終えて

国際交流にはお互いの間に境界・距
離・文化・歴史・知識・立場などさまざ
まな障害が存在します。交流は人と人と
が仲良くなることから始まり、友好関係
を基とした「心」の分野が交流の基本と
なります。文化や歴史をお互いに理解し
ていながら、協調性、広い視野と柔軟
な国際感覚を身につけ、これからの時代
を担う学生達が世界へ挑戦していく姿が
目にうかびます。

訪中、来日、ハードスケジュールの中、
多くの方々に支えられ、楽しい思い出や
心に残る友好交流を行うことができたこ
とに感謝し、今後一層友好の絆を深めて
ほしいと願っています。

STUDENT EXCHANGE in 岡山 2008

参加上海高校生からのレポート

今回は代表して管さんだけの掲載になりました。また、紙面の関係で相当部分を割愛しました。改めて、全文をご報告できるようにしたいと思います（訳責—事務局）

岡山の紅葉

上海市新中高級中学 高一

十二クラス 管 怡 舒

二〇〇八年十一月十二日、私たち上海市新中高級中学訪日代表团は浦東空港を出発し、日本岡山県に到着した。秋は岡山の最も美しい季節で、飛行機から降りるときれいな空気と美しく清潔な環境が、私たちに強烈な印象を与えた。

(中略)

今年七月に上海で交流した日本人に再会できることを期待していた。ずっと想い続けていた。半年の月日がたっていたが、彼らは元気でいるだろうか？朝日高校を訪問する道中で、頭の中は上海の学校で過ごしたひと時を思い巡らしていた。手をつないで遊んだ豫園や南京路、一緒に登った東方明珠タワー、黄浦江船上でともに歌ったことなど、無限に広がる情景を思い浮かべているうちに、朝日高校に到着した。バスを降りたとたん、日本の制服を着た生徒たちの集団が手を振っているのが見えた。初めは彼らの熱烈的な様子に驚いていたが、『Shiny-』という声が直接聞こえ、その声のするところを見ると、確かに Mami・Asumi だった。この二人は私がお世話した二人だった。



日中生徒合同で唄った“朋友”

三人で握手をしたときにもう半年間の空白は吹っ飛んでしまっていた。

(中略)

岡山では、朝日高校と津山高校の二校と

交流した。津山高校の校訓は『敬天畏人』で、自然と人間に対するものであったが、朝日高校の校訓『自律自主』

は一人一人の生徒への要求だった。普通の校訓のように見えるが、これは日本の高校が、個人の習慣から自然崇拜に対する信義を確立するまで、生徒の資質に対する要求の高さを表している。自然と人間を畏れ敬い、自分に厳しく要求する、

この二点はすべからく我々青年時代の者の成長過程にとって大変重要なことである。

(中略)



美術の授業体験

その他、バスケット、バレエ、ハンドボール、野球、サッカー、卓球、弓道、テニス、アニメ、楽団などのクラブ活動は毎日放課後に繰り広げられる。私は、不思議に思っただけで日本の生徒に聞いてみた「毎日クラブ活動をやるの？」返ってきた答えは「そう、毎日放課後すべての生徒がクラブ活動に参加してから帰宅する」というものだった。日本の学校による生徒への体育関係への重視の深さが日本の体育レベルをこのように早く高めているのだということがわかった。

日本の生徒宅での一日は最も新鮮で温もりに満ちた一日だった。初めての日本の家庭での密接な接触、初めての座ったままでの食事、初めて自分の手を動かして点てた抹茶、初めて食べた本場のタコ焼き、初めて食べた日本人の好きな納豆、初めて食べたノリで包んだご飯（おにぎり）、初めて学んだ日本の礼儀、初めての畳の上での睡眠、など、たくさんたくさん初めての。今でも思い出す、すべて目に浮かぶ。日本の家庭の穏やかで和やかなこと、日本のお母さんのハイレベルな料理術、日本の生徒と父兄の暖かい友情、これらのすべてが、私たちが最後の日に涙を流した原因なのです。

(以下略)

協議会事務局からのお知らせ

2008年度STUDENT EXCHANGE in 上海「報告と懇談会」開催

2月21日、岡山県生涯学習センターにて報告会が開催された。岡田会長が開会の挨拶をし、財団法人福武教育文化振興財団（以下、財団と記す）の本田茂伸副理事長より、この事業への期待が述べられた。

会には、財団の本田副理事長や協議会前会長の黒瀬定生先生、派遣生徒の所属学校や引率の教諭、選考委員らが参加した。そして参加生徒から、受験などで来られなかった生徒を除く12名が参加した。一人ずつ、感想や印象に残ったことなどを報告した。ほとんどの生徒が中国の英語教育のレベルの高さ、特に会話能力、コミュニケーション力の高さに驚いたこと、そして今後より積極的に英語学習に取り組みたいと抱負を述べていた。またどの生徒もこのプログラムで考え方が変わったとか、勉強に積極的に取り組むようになったとか、参加してよかったと語っていた。

生徒の報告の後、参加教諭から意見が出され、生徒が、上海で見た中国のよさや欠点も観察しつつ、日本ではどうか、自分たちはどうかなどに視点を置いていることが素晴らしいという意見が出された。



※STUDENT EXCHANGE の報告集が出来上がりました。ご希望の方はお送りしますので、事務局までお申し出ください。

協議会設立10周年特別企画「中国の歴史と文化に尋ねる友好交流の旅」

《日 程 案》

月日(曜)	都市名	交通手段	時刻	行 動 予 定	食事
1 2009年 9月19日 (土)	岡 山 上海(浦東)	MU528 専用車	13:30 14:40	航空機にて上海へ 着後、専用車にて市内へ	× + 夕
2 9月20日 (日)	上 海 上海(浦東) 西 安	専用車 MU522	 20:00 22:00	魯迅記念館で記念活動に参加 (予定) *内山完造氏記念行事 豫園・新天地参観、 夕食後空港へ 国内線で西安へ 西安咸陽空港着後市内へ (西安泊)	朝 昼 夕
3 9月21日 (月)	西 安	専用車		兵馬俑博物館・華清池 大雁塔、陝西省博物館 城壁・岡山県ゆかりの吉備真 備記念碑 (西安泊)	朝 昼 夕
4 9月22日 (火)	西 安 洛 陽	専用車	4.5時間	碑林博物館見学 昼食後専用バスにて黄土高原 を洛陽へ移動 洛陽市歓迎交流会 (洛陽泊)	朝 昼 夕

月日(曜)	都市名	交通手段	時刻	行 動 予 定	食事
5 9月23日 (水)	洛 陽			世界遺産・龍門石窟見学 関帝廟(関羽の首塚)見学 中国最古のお寺・白馬寺参観 (洛陽泊)	朝 昼 夕
6 9月24日 (木)	洛 陽 北 京	MU5696	10:25 11:50	朝食後、空港へ 着後昼食。 故宮博物院、天安門広場見学 (北京泊)	朝 昼 夕
7 9月25日 (金)	北 京			北京郊外見学 万里の長城・明の十三陵 市内見学 胡同めぐり(人力車)王府 井散策 (北京泊)	朝 昼 夕
8 9月26日 (土)	北 京 (大連) (大連) 岡 山	MU2013	08:30 (09:30) (10:30) 13:30	空港へ (大連経由) [帰国]	朝 + ×

*移動交通機関・時刻等は変更されることがあります
*利用航空会社 MU:中国東方航空

協議会事務局 〒700-0902 岡山市錦町5-15 南田辺ビル2階
電話: 086-225-5083 FAX: 086-225-5041
メール: s.matsui@asicom.co.jp

担当: 松井、平野

旭川荘厚生専門学院

●旭川キャンパス

児童福祉科 医療福祉秘書科
第一看護科 第二看護科

〒703-8560 岡山市祇園地先
電話(086)275-0145
FAX(086)275-3283

●吉井川キャンパス

介護福祉科(昼・夜間) 福祉研究科
精神保健福祉科

〒704-8126 岡山市西大寺浜610番地
電話(086)944-6911
FAX(086)944-6922



なりたい自分、もっと夢に近くなる。

岡山商科大学附属高等学校



【進学系列】

《特別進学コース》
《総合進学コース》
《商大進学コース》
《スポーツコース》

【商業系列】

《ビジネスコース》

【工業系列】

《自動車整備コース》
《工業技術コース》

私学唯一の
総合学科

〒700-0807 岡山市南方 5-2-45

TEL 086-252-3407 FAX 086-254-8864

URL <http://www.osu-h.ed.jp> E-mail Syoudaifu@osu-h.ed.jp

学校法人 中国学園

中国学園大学

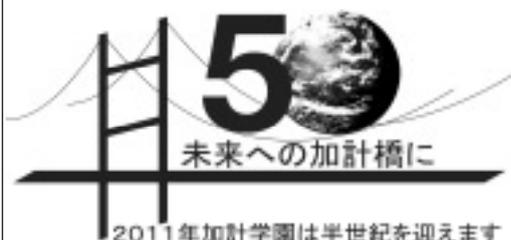
●現代生活学部人間栄養学科 ●子ども学部子ども学科 ●大学院(現代生活学研究科)

中国短期大学

●総合生活学科 ●保育学科 ●英語コミュニケーション学科
●音楽科 ●情報ビジネス学科 ●専攻科

〒701-0197 岡山市庭瀬83番地 TEL086-293-1100 FAX086-293-3993
<http://www.cjc.ac.jp/> E-mail gakusei2@cjc.ac.jp

！岡山理科大学附属 中学校！ ！中高一貫コース！



学校法人 加計学園 岡山理科大学附属中学校
〒700-0005 岡山市理大町1番1号

TEL : (086) 256-8517 FAX : (086) 256-8518

E-mail : tomokazu-o@fuzoku.ous.ac.jp

学校法人 加計学園 中高広報室

TEL : (086) 256-8527 FAX : (086) 256-8526

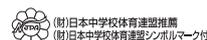
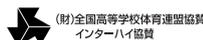


YES NO

イエスとノーの間でゆれる子どもたちに勇気を届けられる制服を。
 恋しみの向こう側まで一緒に歩いてゆける制服を。
 あの日の自分がいちばん好きだったと思えるような制服を。

子どもたちと同じ気持ちでいるために、私たちも、こう、つぶやいています。

Do you like you?



OZAKI

〒700-0024
 本社:岡山県岡山市駅元町15番1号
 岡山リットシティビル5F
 TEL 086(898)2500
 FAX 086(898)2510
 お客様相談室 0120-712983
 URL <http://ozaki.jp>

尾崎商事
株式会社



JQA-QMS119
 尾崎商事(株)品質グループ
 JQA-EM0699
 尾崎商事株式会社



カンコースクールウェア
 カンコースポーツウェア



〈事業領域〉教育・語学・生活・福祉

くわしくはホームページをご覧ください。

<http://www.benesse.co.jp/>

株式会社ベネッセコーポレーション

岡山本社 〒700-8686 岡山市南方3-7-17 TEL(086)225-1100

Benesseは、ラテン語の「Bene(よく)」と「esse(生きる・暮らす)」を一語にした造語です。

おかげさまで20周年!

アジア・コミュニケーションズはあなたのツアーデスク!

- 岡山発着航空機の手配いたします!
中国東方航空で上海・大連・北京へ!
大韓航空で韓国ソウルへ、仁川空港経由で中国各地へ!
- お得なパッケージツアー(上海・大連・青島・など)
- 特徴あるこだわりのツアー
シルクロード、チベット、雲南、内モンなど
皆様のご要望に沿った旅行企画をいたします。
安心の添乗員同行ツアーです
- 日中教育交流のサポート
企画から旅行実施、添乗までサポートします。

○お気軽にお問合せ下さい



株式会社アジア・コミュニケーションズ
 ASIA COM 国土交通大臣登録旅行業第1816号 ©JATA正会員 IATA公認
 岡山市錦町5-15 南田辺ビル4F(〒700-0902)
 TEL(086)231-0334 FAX(086)225-5041
<http://www.asicom.co.jp> Eメール info@asicom.co.jp

協賛広告



学校法人 志学学園/眼鏡技術専門学校

ワールド オプティカル カレッジ

メガネに関する「専門知識」と「最新技術」を修得した
 スペシャリスト 眼鏡技術者を育成

第一眼鏡科: 高校卒業以上 3年制
 第二眼鏡科: 専修学校・短期大学卒業以上 2年制
 (学校見学は随時受付けております)

〒703-8282 岡山市平井6-6-11 TEL:086-272-5566 FAX:086-272-4422 0120-88-8233
<http://www.woc.ac.jp> E-mail woc@woc.ac.jp



岡山県日中教育交流協議会

岡山県日中教育交流協議会 会報 『悠久』 第28号

発行：平成21年2月

発行者：岡山県日中教育交流協議会 編集委員会

〒700-0902 岡山市錦町5-15 南田辺ビル2階

TEL (086) 225-5083 FAX (086) 225-5041

印刷所：旭総合印刷株式会社